

平成30年度 各務原市社会福祉協議会事業報告書

平成30年度 各務原市社会福祉協議会 事業報告

めざす姿

「ささえて ささえられて みんなが主役のまちづくり」

基本方針

各務原市の高齢化率は27%を超え、少子化や核家族化・ひとり親家庭が増加する中、私たちの身の回りでは、介護や貧困をはじめとする生活課題の多様化・深刻化が進んでいます。これらの生活課題の解決には、社会保障政策のほかに、自助・自立支援とともに、住民主体による地域の役割や住民が主体となって進める支えあい活動が重要となっています。

「ささえて ささえられて みんなが主役のまちづくり」を目指す姿とした第3期地域福祉活動計画の4年目にあたる平成30年度は、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、生活課題の解決に向けた「地域住民の力を活かす仕組みづくり」を進めました。

基本目標1 一人ひとりの声を受けとめ、必要とする情報を必要な人に届けます

＜方向性1＞住民の声を受けとめる環境をつくろう

重点事業1 総合相談窓口の充実

①生活相談センターさぽーとの総合相談窓口

- ・さまざまな悩みや困りごとの相談に対応するなど解決に努めました。
内容別相談件数 5,465件（重複あり）

相談区分	相談件数 (延べ)
1. 病気や健康、障がいのこと	1,297
2. 住まいについて	388
3. 収入・生活費のこと	1,211
4. 家賃やローン支払いのこと	169
5. 税金や公共料金等の支払いについて	101
6. 債務について	67
7. 仕事探し、就職について	547
8. 仕事上のトラブルや不安	76
9. 地域との関係について	26
10. 家族関係・人間関係	136
11. 子育てのこと	25
12. 介護のこと	60
13. ひきこもり・不登校	24
14. DV・虐待	11
15. 食べるものがない	241

16. 金銭管理・家計相談	598
17. その他	488

・啓発用チラシ等の作成

生活困窮者自立支援事業を紹介するチラシと生活相談センターさぽーと啓発用ポケットティッシュを作成し、本会の事業や地区社協等で配布するなどして周知しました。

<方向性2>わかりやすく情報を発信しよう

重点事業1 社協活動のPR

①社協だよりによる情報提供

- ・社協かかみがはらの発行（年4回）

社会福祉協議会の事業や講座の案内、ボランティア募集など福祉の情報提供を行いました。

（5月15日号、7月15日号、10月15日号、2月15日号）

- ・ウェブサイト、LINE@等による情報発信

ホームページやフェイスブックにおいて情報発信を行いました。また、各種メディアにも情報提供し、取材や記事掲載に努めました。

②サポート君バッジ・ストラップのPR

- ・社協キャラクター「サポート君」をイメージしたピンバッジ・ストラップを作成し、社協のPRに努めました。

基本目標2 みんなで支えあうつながりの“わ”を広げます

<方向性1> 住民同士の支えあいを進めよう

重点事業1 近隣ケアグループ活動の支援

①近隣ケアグループ活動の促進

- ・ご近所さんならではの声かけと見守り活動をとおして、地域のささえあい活動を進める近隣ケアグループ活動の支援を行いました。

登録数 303グループ 活動員数 2,107名

②近隣ケアグループ全体研修会

開催日：5月19日（土）

場 所：各務原市民会館

演 題：「心をつなげる生活支援～八木山地区社協 ささえあいの家、ささえあい活動センターの取り組み～」

講 師：八木山地区社会福祉協議会

参加者数：約1,000名

重点事業2 ボランタリーハウス事業の発展強化

①ボランタリーハウス事業の活動支援

- ・地域で暮らす高齢者や子育て中の親子、障がいのある人たちが閉じこもりにならないよう気軽に集まることのできるボランタリーハウス事業を促進し、調整等の支援に努めました。（開設数 106カ所・うち 新規4カ所）

A型（毎週型）	B型（毎月型）	C型（ミニ型）	D型（巡回型）	E型（常設型）
5	90	8	1	2

②ボランタリーハウス事業の啓発

オリジナルうちわを7,000本作成し、関係機関及び地域活動の際などに配布し活用いただきました。

③ボランタリーハウスの立ち上げ支援

- 平成30年度に新規で下記の4か所のボランタリーハウスが立ち上がりました。

B型（毎月型） 三柿野東（那加一地区）

だいじょうぶ乙女会（那加三地区）

ボランタリーハウスとまり木（鵜沼第一地区）

C型（ミニ型） いこいの広場（蘇原南部地区）

<方向性2> 団体・組織間で連携しよう

重点事業1 関係機関との連携促進

①各務原市福祉フェスティバル2018 ~ふくしがつくる 世代と未来~

開催日：9月2日（日）

場 所：各務原市民会館・中央ライフデザインセンター一帯

来場者数：約2万人 参加団体：75団体

②自治会連合会長・地区社協会長合同会議 4月19日（木）

③自治会連合会、民生委員児童委員協議会への活動支援

④母子及び父子並びに寡婦福祉会への助成 50,000円

（母子及び父子並びに寡婦福祉会員ふれあい旅行事業 146名参加）

⑤更生保護女性会への活動助成 30,000円

⑥母子父子家庭新入学及び卒業記念品の贈呈 72,000円

〔 新入学児童お祝い会 対象者54名 〕

ひとり親家庭等児童中学卒業記念品贈呈 対象者117名]

<方向性3> 住民と地域がつながるまちをつくろう

重点事業1 第4期地域福祉活動計画策定

地域福祉の方向性を定める各務原市の「地域福祉計画」と、その具体的な活動内容を定める本会の「地域福祉活動計画」を一体的に策定し、運動性、実効性の高い計画とするための策定委員会及びワーキンググループを共に開催しました。

第1回 策定委員会 10月 5日

第2回 策定委員会 2月21日

第1回 ワーキンググループ会議 9月21日

第2回 ワーキンググループ会議 2月 7日

コミュニティ会議の開催（全17地区） 6月～11月

重点事業2 コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の充実

①生活相談センターさぽーとと連携した、地域課題解決への取組み

- 地区社協担当者（コミュニティソーシャルワーカー）と生活相談センターさぽーとが情報共有し、地域での見守りや連携がとれる仕組みづくりを進めました。

重点事業3 福祉教育の推進

①福祉推進校・福祉推進企業の促進

- ・次代を担う子どもたちが、さまざまな体験活動をとおして福祉への関心をもち、理解を深めることができるよう福祉推進校に指定しました。また、学校からの要請に応え、福祉体験講座の講師やボランティアを派遣しました。

職員による出前講座 延べ 41回

外部講師による出前講座の調整 延べ 20回

その他 隨時学校と打ち合わせをしながら福祉教育の推進に努めました。

・福祉推進校

小学校17校・中学校8校・高校3校・特別支援学校 計29校

②かかみがはら寺子屋事業2.0「福祉体験学習」

- ・福祉の現場で障がいとお年寄りについて学んでもらう、かかみがはら寺子屋事業2.0「福祉体験学習」を受託し、福祉教育の推進を図りました。また、今年度は小学生のテーマを福祉への興味関心、中学生は職業観について考える機会とし、将来的に福祉分野で学んでもらえるよう働きかけました。

寺子屋事業「福祉体験学習」

第1回 7月24日(火) (場所:飛鳥美谷苑)

高齢者施設体験コース(小学生) 参加者: 19名

第2回 8月1日(水) (場所:福祉の里)

障がい者施設体験コース(小学生) 参加者: 27名

第3回 8月21日(火) (場所:福祉の里)

障がい者施設学習コース(中学生) 参加者: 10名

第4回 8月22日(水) (場所:プラザ&メゾン)

高齢者施設学習コース(中学生) 参加者: 7名

重点事業4 災害ボランティアセンターの充実

①災害ボランティアセンターの機能強化

- ・市総合防災訓練に参加し、災害時の職員の動きについて確認しました。市ひとりづくり講座では、災害ボランティアセンターについて講義を行い、地域住民の理解を深めるよう努めました。

②被災地への職員派遣

- ・平成30年7月豪雨により関市内を流れる津保川が氾濫し、上之保地域の多くの住宅が床上・床下浸水の被害を受けました。関市社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを立ち上げたことに伴い、本会からセンター運営支援に職員を派遣しました。また同豪雨の影響で土石流が発生するなど、甚大な被害が出た広島県呉市の災害ボランティアセンターにも職員を派遣しました。

(1) 関市上之保地区 7月9日(月)～7月16日(月) 8日間14名

(2) 広島県呉市天應地区 9月9日(日)～9月14日(金) 6日間 1名

③職員研修

- ・災害ボランティアセンター設置経験のある和歌山県新宮市及び三重県伊勢市へ職員2名を視察に派遣。立ち上げ時の時間経過や立ち上げ場所などを実際に視察しました。

④災害ボランティアセンターマニュアルの改訂

基本目標3 誰もが進んで参加できる地域福祉活動を続けていきます

<方向性1> 地区社協らしさがだせる取り組みをしよう

重点事業1 地区社協活動の支援

① 17地区社協活動の生活支援事業の取り組み支援

- 企画提案型助成事業の継続支援および拡充

② 17地区社協の実情にあわせたメニュー事業の展開

- 地区交付金
- メニュー事業助成金等および内訳

7,304,000円
16,133,142円

事業名	会費趣旨説明会	近隣ケアグループ研修	地域の困りごと調査	福祉座談会	ボランタリーハウス事業	ふれあい交流事業	機関紙の発行	歳末たすけあい特別事業	食を通した生活支援事業	生活支援センター団体連携事業	福祉の人財発掘事業
地区社協名	回数	回数	回数	回数	箇所	回数	回数	回数	回数	件数	回数
那加一		1		1	6	2	2	1			1
那加二東部		1		2	9	2	2	1			1
雄飛	1	1		1	2	4	2	2			1
那加三		1	1	3	9	1	3	2			
尾崎	1		1	2	3	3	1	1			1
稻羽西		1		1	4	1	2	1			2
稻羽東		1		1	2	2	1	1			
川島		1		1	4	1	1	1	1		
鵜沼第一	1	1	1	2	6	1	2	1			1
鵜沼第二	1	1		1	7	2	2	1			1
陵南	1	1	1	1	4	2	2	1	1		
鵜沼第三					6	1	2	1	8		2
各務		1		1	6	3	2	1			2
緑苑		1		3	7	1	12	3	1		2
八木山		1	3		3	12	3	1			8
蘇原北部	1	1		1	14	4	2	1			1
蘇原南部		1	3	3	14	3	2	1			4
合計	6	15	10	24	106	45	43	21	11	0	27

③地区社協会長・福祉推進員研修会

開催日：5月24日（木）

内容：多治見市社会福祉協議会、共栄地区社会福祉協議会の事例報告及び意見交換

④地区社協広報担当研修会及び意見交換会

- ・地区社協広報担当者研修会

開催日：7月4日（水）

内 容：「今日からできる！紙面づくりのちょっとしたコツ」

講 師：大山 弘さん（中日新聞 各務原支局）

- ・地区社協意見交換会

開催日：8月24日（金）

内 容：メニュー事業について

⑤地区社協会長・福祉推進員合同会議

開催日：2月12日（火）

内 容：社協会員募集について、平成31年度メニュー事業について

<方向性2> 生活課題に取り組もう

重点事業1 生活相談センターさぽーとの充実

①生活困窮者自立支援事業の実施

- ・生活困窮者自立支援法に基づく相談事業を受託し、生活困窮者の社会生活の自立支援と地域づくりを目指した相談支援を行いました。

内容別相談件数 5,465件（重複あり。再掲）

- ・生活困窮者の個別支援計画を作成し、関係機関で協議する支援調整会議を10回開催しました。

- ・住居確保給付金申請支給決定 8件（相談16件）

- ・一時生活支援事業 4件延べ96泊（相談7件）

- ・就労準備支援事業 1件（相談1件）

②生活困窮者への緊急食料品等提供

- ・適切な福祉サービス利用へつなぐとともに一時的措置として食料を給付しました。

給付件数 135件（うち寄付米の給付 127件）

セカンドハーベストを通じた食料給付 133件

③家族のつどい（年6回）

- ・ひきこもりの家族等が集まり、同じような悩みを抱える者同士で茶話会をもらいました。気持ちの分かちあいや、気づきを促し、課題の整理や適切な機関へつなげていきました。

4月5日（木）、6月14日（木）、8月2日（木）、10月4日（木）

12月6日（木）、2月7日（木）

④生活福祉資金貸付事業

- ・低所得者世帯や離職者など経済的支援を必要とする世帯に自立を促し、安定した生活を営むため生活支援費や福祉資金などの資金を貸し付け、必要な助言・指導をしました。

資金の種類	新規貸付件数
総合支援資金	0件
緊急小口資金	41件
福祉費	13件

教育支援資金	11件
不動産担保型生活資金（要保護）	0件
合計	65件

・貸付に関する相談 延べ690件

⑤法人後見事業

- ・本会が法人として成年後見人となり、後見支援員1名の体制で成年後見業務を実施しました。

受任件数 1件（類型：後見1件）

⑥成年後見制度普及講座の開催

- ・成年後見制度に興味、関心のある市民を対象に成年後見制度の理解を深める講座を開催しました。成年後見制度利用促進事業として実施し、各務原市・羽島市・岐南町・笠松町2市2町を対象に行いました。

開催日：12月13日（木）

場所：産業文化センター あすかホール

講義：事例から学ぶ成年後見制度—生活と権利を守るために—

講師：岡川毅志さん（一般社団法人ぎふ権利擁護センター代表理事）

参加者数：110名

⑦日常生活自立支援事業

- ・判断能力が低下し日常生活に不安のある人が、住み慣れた地域で安心した生活ができるように、「福祉サービス利用にかかる援助」「日常的金銭管理」「書類等預かり」のサービスを契約に基づき行いました。

生活支援員：12名

継続契約件数：44件

新規契約件数：16件

重点事業2 福祉有償運送事業の推進

①福祉有償運送事業

- ・運転手を雇用し、利用者に対し安定した利用ができるよう努めました。
- ・利用者登録者に対して、介護認定期間等の確認等更新手続きを行いました。

＜登録者数 35名 運行実績 506回＞

重点事業3 介護保険法・障害者総合支援法に基づく支援

①居宅介護支援事業（ケアプラン作成）、主任ケアマネジャー配置、認定調査実施

- ・要介護認定の高齢者等が安心して在宅で生活できるよう、本人や家族と相談して適切な居宅介護サービス計画を作成しました。

介護度	介護度別件数	介護度別比率	月平均件数
要介護1	770件	30. 9%	64. 2件
要介護2	1, 007件	40. 4%	83. 9件
要介護3	420件	16. 8%	35. 0件

要介護4	152件	6.1%	12.7件
要介護5	144件	5.8%	12.0件
計	2,493件	100.0%	207.8件

ケアプラン作成 2,493件

要介護認定調査実施 330件

主任ケアマネジャー 1名配置

②障がい児者計画相談支援（ケアプラン）の作成、相談支援充実・強化事業

- ・障がい者特定相談支援事業所の指定

障がい者特定相談支援事業所の指定を受け、障がい児者のプラン作成と地域相談支援事業に取り組みました。

計画相談支援件数 73件 モニタリング 78件

- ・相談支援充実・強化事業の実施

障がい児者およびその家族の方に、家庭訪問や電話等によるきめ細やかな相談支援を行い、適切なサービス利用へつないだり、必要な情報提供を行いました。

延べ相談件数 2,485件

支援方法	訪問	来所	電話・メール・FAX	同行・個別支援会議	関係機関との調整	その他
件数	430	384	1,329	70	222	50

③訪問介護事業、障がい児者ヘルパー、ガイドヘルパー派遣事業

- ・要介護高齢者や障がい児者の在宅生活を支援するホームヘルパーやガイドヘルパー派遣を行いました。また、制度外サービスとして『まごころサービス』を実施しました。

- ・要介護認定者へのサービス提供実績

サービス形態別の実績（要介護1～5）

利用者数 <延べ726名> 月平均利用者数 <60.5名>

内訳	回数	延べ時間
身体介護	3,306	2,290
身体生活	2,058	2,394
生活援助	2,168	2,053
合計	7,532	6,737

- ・要支援認定者へのサービス提供実績（総合事業）

利用者数 <延べ633名> 月平均利用者数 <52.8名>

内訳	利用者数	利用頻度
総合事業対象者	68	週1～2回程度
要支援1	189	週1～2回程度
要支援2	376	週2～3回程度
合計	633	

・障がい児者へのサービス提供実績

利用者数 <延べ633名>

月平均利用者数 <52.8名>

内訳	利用者数	利用回数
身体障がい	172	2,093
知的障がい	150	1,185
精神障がい	113	707
障がい児	36	348
同行援護	65	258
移動支援（障がい者）	94	202
移動支援（障がい児）	3	57
合計	633	4,850

④訪問入浴サービス事業、在宅障がい児者訪問入浴サービス

- ・自宅の浴槽を使っての入浴が困難な要介護高齢者や障がいのある人等を対象に特殊浴槽を用いた居宅での入浴サービスを提供しました。

介護保険の訪問入浴実績

利用者数 <延べ78名>

利用回数 <延べ357回>

障害者総合支援法による実績

利用者数 <延べ60名>

利用回数 <延べ420回>

⑤生活支援コーディネーター配置事業

- ・自分たちの住む地域や生活を見つめ直し、地域における新たな支えあいについての情報や意見を交換する場として協議体を設置し、住民主体の生活支援、介護予防に資する活動に関する相談や支援を行いました。

生活支援コーディネーターの配置 1名

協議体（わがまち茶話会等）の設置 11か所 延べ38回開催

重点事業4 地域包括支援センターの運営

- ・地域の高齢者が安心して暮らせるように、看護師、社会福祉士、主任ケアマネジャー、認知症地域支援推進員が連携して介護予防や総合相談、権利擁護などの事業に取り組みました。

① 総合相談支援 <1,318件>

受付別内訳 （電話610件、来所202件、訪問459件、その他47件）

内容別件数（重複あり）

(1) 介護保険制度の利用	630件
(2) 介護予防事業の利用	54件
(3) 福祉サービスの利用	140件
(4) インフォーマルサービスの利用	136件
(5) 医療・保健サービスの利用	275件
(6) 住宅改修に関する相談	132件
(7) 福祉用具に関する相談	207件

(8) 介護方法に関する相談	121件
(9) 虐待に関する相談	49件
(10) 認知症に関する相談	164件
(11) 権利擁護に関する相談	54件
(12) その他、障がい、出前講座等に関する相談	80件

② 介護予防プランの作成

- ・総合事業対象者のプラン作成<388件>
- ・要支援1、要支援2の利用者にかかるプラン作成<3,526件>

③ 介護予防事業及び在宅介護支援事業

(1) 介護予防・日常生活支援総合事業対象者把握事業	35件
(2) 介護予防普及啓発事業	29回
(3) 地域ケア個別・検討会議	12回
(4) 地域包括ネットワーク事業	3回
(5) 高齢者体力測定補助事業	2回
(6) 認知症サポーター養成事業	19回
(7) 家族介護者教室	2回
(8) 認知症高齢者及び家族支援事業	6回
(9) 要援護高齢者見守り事業	44件
(10) 住宅改修プラン作成	8件
(11) 食の自立支援事業アセスメント	35件

主な取り組み

- ・地域ケア個別会議の開催 月1回 計12回開催

- ・認知症キッズサポーター養成講座<小学校5年生及び中学校2年生対象>

那加第二小学校 3クラス 11月26日(月)

那加第三小学校 3クラス 10月25日(木)

蘇原第二小学校 3クラス 2月18日(月)

桜丘中学校 4クラス 10月 3日(水)

那加中学校 5クラス 9月26日(水)

- ・認知症サポーター養成講座<市民及び企業対象>

一般市民 6月29日(金) 28名参加

- ・さくらカフェ(認知症カフェ)の開催

桜丘中学校 10月27日(土) 61名参加

喫茶ブルーカフェにて開催

第1回 リズムに乗って健康体操 5月17日(木) 26名参加

第2回 ちぎり絵作品つくり 9月20日(木) 26名参加

第3回 プロ歌手 尾崎彰さんによるクリスマスソング 12月20日(木) 40名参加

第4回 ビューティタッチセラピストによる肌の手入れ 2月21日(木)

33名参加

- ・もの忘れよろず相談医による講話 9月13日（木）54名参加
講師：なぎクリニック院長 宮崎 渉さん
講話：「認知症を予防するための生活習慣等の留意点について～」
 - ・家族介護者教室 年2回
第1回 「認知症の方への対応」について 5月31日（木）23名参加
第2回 「転倒しないための工夫」について 2月25日（月）23名参加
 - ・地域包括ネットワーク会議
「できるだけ長く元気で在宅生活を続けるために」
第1回 大事な財産を守ろう 9月19日（水）48名参加
第2回 交通手段を利用しよう 10月17日（水）43名参加
第3回 元気な秘訣を探そう 11月14日（水）42名参加
- ④包括的・継続的ケアマネジメント事業（重複あり）

(1) 個別事例への助言対応	64件
(2) サービス担当者会議出席及び開催	23件
(3) ケアマネジャー資質向上のための研修	5件
(4) 介護支援専門員に対する情報支援等	41件
(5) 主治医との連携	11件
(6) 地域ケア会議（個別）	21件

⑤その他の取り組み

- ・地域包括支援センター連絡会 <年12回開催 毎月第2水曜日>
- ・地域密着型サービス運営推進会議への参加 29回
- ・その他会議の参加（主任ケアマネ部会等） 62回
- ・ボランタリーハウス、シニアクラブ、地区社協等との連携事業 <69回>
- ・地域包括支援センターだよりの発行
<年4回発行 5月1日号、8月1日号、11月15日号、2月1日号>

基本目標4 人と地域ができる仕事を活かす仕組みをつくります

<方向性1> みんなの出番をつくろう

重点事業1 ボランティアセンターの充実

①個人・団体登録促進と活動支援

- ・ボランティア通信の発行や、一芸ボランティア冊子などでボランティア紹介や調査等を行いました。

- ・ボランティア活動に関する相談、登録等

団体登録 78団体 1,641名

個人登録 75名

ボランティア情報配信登録 41名

- ・ボランティア活動保険の加入

ボランティア中の事故やけがに備えるための保険に加入し、事故等の対応を行いました。

②ボランティア養成講座、体験講座

講 座 名	期 間	受講者	修了者
手話奉仕員養成講座・入門編	8月2日～12月6日 毎週木曜日18回	15名	11名
手話奉仕員養成講座・基礎編	7月6日～12月14日 毎週金曜日23回	18名	16名
点訳ボランティア養成講座	10月1日～2月4日 每週月曜日15回	4名	4名
音訳ボランティア養成講座	9月11日～12月18日 每週火曜日15回	8名	8名
要約筆記体験講座	2月2日,9日,16日,23日 土曜日 計4回	12名	

③収集ボランティアサロンへの参加促進

- ・関係機関から集まった古切手を整理し切手愛好家の方に購入していただきました。
- 開催日：毎月第3金曜日
 参加者数：延べ90名
 切手換金額：6,000円

重点事業2 人材育成と活用促進

①生活支援センター養成研修事業

- ・地域の支え合い活動の担い手や、総合事業の生活支援業務従事者を養成する研修を2回開催しました。修了者のうち1名が訪問介護事業所にて生活支援業務に従事しています。

【前期】 6月4日（月）、6月12日（火）、6月26日（火）

同行訪問実習1日間

22名受講（19名修了証交付）

【後期】 10月29日（月）、11月5日（月）、11月19日（月）

同行訪問実習1日間

13名受講（10名修了証交付）

- ・ささえあいづくり講座として、新たな地域活動の担い手やボランティアを養成し、地域のささえあい活動を広めるため、市内4地区で開催しました。

【第1回】 2月5日（火） 那加一・那加三地区 6名受講

【第2回】 2月14日（木） 蘇原南部地区 12名受講

【第3回】 2月21日（木） 鶴沼第三・緑苑地区 12名受講

【第4回】 2月26日（火） 尾崎地区 21名受講

②2級ヘルパー就職応援研修事業<3月12日（火）、参加者3名>

- ・ヘルパー資格を持っているのに就職していない方を対象に、「就職応援」と題して研修を行いました。

重点事業3 高齢者の社会参加支援

①お達者でクッキング

食生活改善協議会のボランティアの協力により一人暮らし高齢者や高齢者夫婦を対象に年2回開催しました。

第1回 開催日：6月27日（水）

参加者数：11名

第2回 開催日：11月15日（木）

参加者数：19名

重点事業4 障がい者の活動支援

①障がい者サロンへの活動支援

- ・障がい者サロン「みっぱらクック」の継続的な活動を支援するために活動費の助成を行いました。<年間12回実施 延べ343名参加>

重点事業5 子育て支援事業の推進

①ファミリーサポートセンター事業・研修会、産後お助け隊事業、利用会員・サポート会員の登録促進

- ・主に小学校3年生までの子どもを対象に、学校や保育施設までの送迎や一時預かりなど保護者にかわってサポート会員が行いました。

登録者数 : 303名（利用会員234名、サポート会員69名）

※産後お助け隊サポーター35名含む、利用会員兼サポート会員20名

コーディネート実績：244件

新規登録者 : 80名（利用会員67名、サポート会員13名）

- ・事業利用促進としてお試し券の発行

お試し券利用者 : 6名

- ・ファミリーサポート研修会

安心して事業を利用していくとともに、事業を周知し利用会員及びサポート会員登録者の増加につなげることを目的として研修会を開催しました。

開催日 : 2月15日（金）

テーマ : 「救急救命講習～普通救命講習Ⅰ～」

内容 : 市消防本部からAED実習、小児への心肺蘇生法や異物除去の方法を学び、会員同士の交流および新規会員募集を行いました。

参加人数 : 10名（サポート会員6名・一般4名）

②子育てサロンへの活動支援

- ・親子サロンへの助成

市内6カ所で開催されている親子サロンへ活動費を助成しました。

- ・まあみいにい（住吉集会場）
- ・プチトマト（尾崎中央ふれあい会館）
- ・みいっ子（三井町公民館）
- ・みなみっこ（鵜沼南町会館）
- ・花いちもんめ（各務原コミュニティセンター）
- ・あっぷあっぷ（新鵜沼台コミュニティセンター）

重点事業6 共同募金運動の促進

① 共同募金支会の運営

- ・共同募金運動（赤い羽根募金・歳末たすけあい募金）の展開及びPR

赤い羽根募金	歳末たすけあい募金	募金額合計
17,900,811円	2,744,929円	20,645,740円

② 岁末たすけあい配分事業

配 分 先	対象者数	配分金額
障がい者通所施設	39施設 1,599名	1,076,387円
地区社協活動（歳末たすけあい特別事業）	17地区 2,748名	1,668,542円
合 計	4,347名	2,744,929円

③ 募金百貨店プロジェクト

- ・企業等との連携協力によりさまざまな寄付つき商品・企画を創りあげ、商品等の売上の一一部を赤い羽根共同募金の財源とする取り組みを行いました。
- ・登録店4事業所。

＜方向性2＞ 地域の新たな支えあいの仕組みをつくろう

重点事業1 夢を実現プロジェクト事業の促進

夢を実現プロジェクト事業・小地域で行う夢を実現プロジェクト事業の助成期間3年間で解決しなかった課題をフォローするために、「夢プロ・ミニプロフォローアップ事業」を新たに創設しました。

① 企画提案型 一 夢を実現プロジェクト事業 1,543,000円

- ・企画提案型助成事業の継続支援および拡充

緑苑地区社協 「地域通貨を活用した生活支援事業」 生活支援

八木山地区社協 「より住みやすいまちづくりを目指す生活支援活性化事業」 生活支援

② 企画提案型 一 小地域で行う夢を実現プロジェクト事業 759,527円

各務地区社協 「川崎団地 お出かけサロン」 外出支援

蘇原南部地区社協 「六軒西第6自治会防犯パトロール事業」 生活支援

鵜沼第三地区社協 「新鵜沼台小さな手助け活動」 生活支援

稻羽東地区社協 「両内野自分の命を守る」 生活支援

稻羽東地区社協 「長平安心で安全なまちづくり事業」 生活支援

③ 夢プロ・ミニプロ事業、フォローアップ助成金交付事業 400,000円

各務地区社協 「歴史で広がる郷土の福祉事業」 福祉教育

那加一地区社協 「新加納地区暮らし安全防犯パトロール事業」 生活支援

重点事業2 権利擁護事業の推進

① 法人後見事業（再掲）

② 日常生活自立支援事業（再掲）

③ 成年後見制度普及講座の開催（再掲）

重点事業3 法人組織の整備強化

①理事会・評議員会の運営

理事会 5月1日(書面による決議)、5月25日(金)、10月12日(金)、
10月25日(書面による決議)、3月14日(木)

評議員会 5月10日(書面による決議)、6月19日(火)、11月9日(書面による決議)、
3月25日(月)

評議員選任・解任委員会 5月31日(木)

②第52回各務原市社会福祉大会

開催日：11月28日(水)

場所：各務原市民会館

第1部 式典

内容：福祉関係功労者の表彰

第2部 記念講演

講演：「天使がこの世に降り立てば～ダントン症者の書家 翔子と歩んできた道～」

講師：金澤泰子さん・翔子さん(書家)

参加者数：福祉関係者及び市民 約850名参加

③会員加入促進と使途説明の強化

多くの市民に本会事業を理解いただき会員募集に協力いただけるよう、周知活動に取り組みました。

- ・社協だより(5月15日号)で会員募集特集記事を掲載しました。
- ・地区社協単位のチラシを作成し、回覧しました。
- ・自治会未加入者への働きかけとしてPRパンフレット(振込用紙付き)を作成し、公共施設等に配置しました。
- ・地区社協のたよりや各事業の案内文書等に「会費ロゴマーク」を掲示し、会費を財源として事業が行われていることをPRしました。
- ・PR用のぼりを作成し、ボランタリーハウスや地区社協事業で活用しました。
- ・各地区社協で総会や会費趣旨説明会等の場で会員募集の説明を行いました。
- ・自治会組織のない地域に会員募集の説明と協力のお願いをしました。

世帯会員			賛助会員		合計
会員数	加入率	会費額	会員数	会費額	
36,085	77.7%	18,267,700円	795	3,470,000円	21,737,700円

・寄付金

件数	寄付金額(物品を含む)
78件	7,446,839円

④安全衛生委員会

- ・職員の健康管理のため健康診断を実施するとともに、安全衛生委員会を開催しました。

安全衛生委員会の開催 毎月1回（月末開催）
職員健康診断の実施 ぎふ総合健診センター等
ストレスチェックの実施
インフルエンザワクチンの接種
10月30日（火）、11月6日（火）
職場巡回チェック（安全衛生点検） 11月22日（木）
産業医参加による健康指導 11月27日（火）

⑤職員レベルアップ講座

- ・市民サービスの拡充に努め、資質向上を図るため職員全体研修会を行いました。

開催日：12月7日（金）

演題：ワークライフバランスについて

講師：高田 浩史さん（各務原市男女が輝く都市づくり審議会委員）

参加者数：46名

重点事業4 新たな制度外生活支援サービスの創出

①まごころサービス事業

- ・介護保険では行うことができない制度外サービスとして提供しました。

通院支援 41名

大掃除 3名

外出 6名

- ・利用者数 延べ50名

②車いす、松葉杖、レクリエーション用品等の貸出

- ・車いすや松葉づえの貸出

貸出件数 122件（車いす120件・松葉杖2件）

- ・レクリエーション用品等の貸出 貸出件数 86件